

シリーズ・物の大きさと収納

階段下の外物置に 車庫上のデッドスペースや 使用頻度が低く、かさばるものは

第5回 アウトドア用品の収納
建築家 河野 正

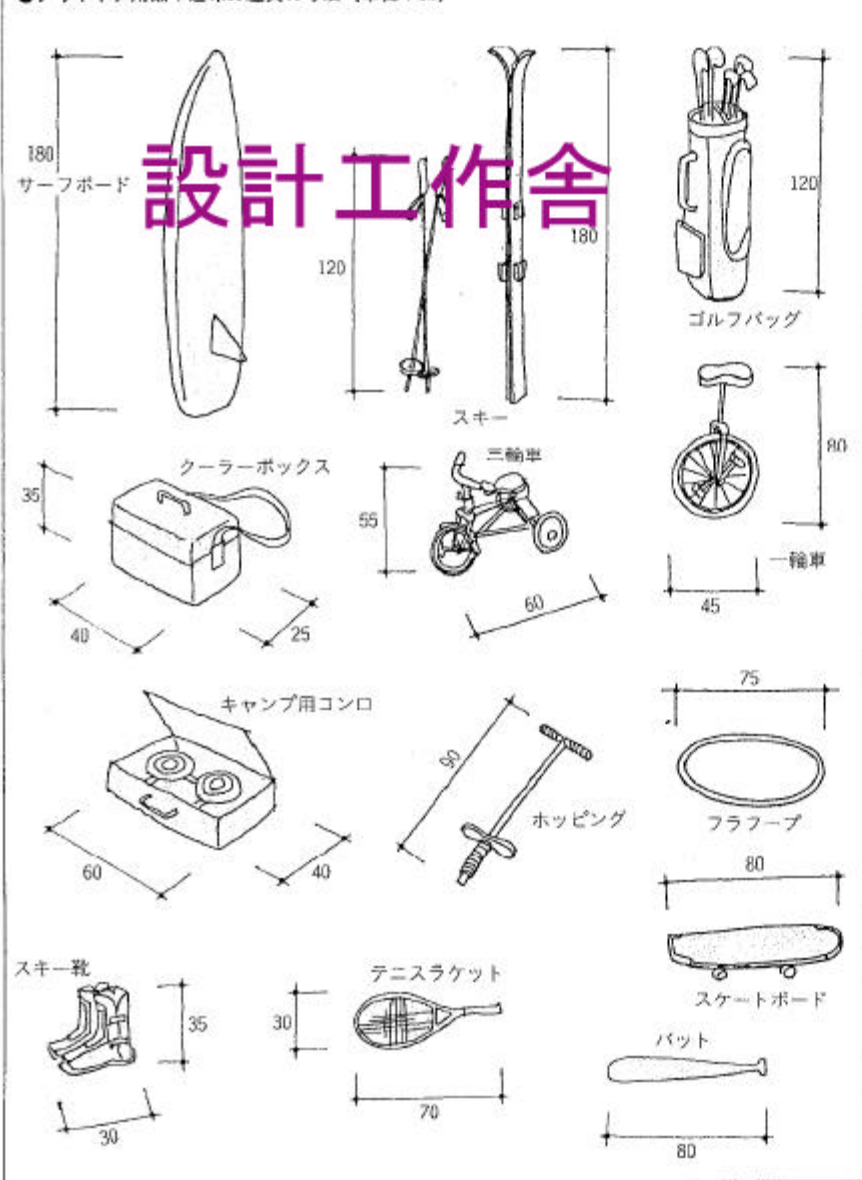
用具の種類をリストアップしてみました(別表)。いずれも屋外で使うものばかりです。できるものなら、外から直接出し入れてできる場所にしようのが、便利です。何といても物置が最適でしょう。建物内にしようなら、納戸か、かなり容量のある収納を計画します。

自動車の車庫を設けるなら、一部に棚や収納を作ったり、倉庫的に使いたししょう。次に品物別にとりあげてみます。

●表 趣味の道具やアウトドア用品

種類	品物
(屋外)玩具	フラフープ、なわとび、スケートボード、ホッピング、一輪車、三輪車
スポーツ用具	ゴルフ用具、スキー用具、テニス用具、ダイビング用具、野球用具、各種ボール、サーフボード、ローラースケート、登山用品、ゲートボール
アウトドア用品	キャンプ用具、釣り道具、自転車、オートバイ、乳母車
カー用品	タイヤチェーン、洗車ブラシ、バケツ、ルーフキャリア、オイル缶、ツールボックス
園芸用品	脚立、剪定ばさみ、芝刈り機、スコップ、散水ホース、ジョウロ、バケツ、竹ぼうき、熊手、ちり取り
日曜大工用品	のこぎり、金鋸、ドライバー、ペンキ缶

●アウトドア用品や趣味の道具の寸法(単位:cm)



レジャーの多様化とともに、人々の余暇の個性化が言われています。趣味やスポーツなどアウトドア・ライフの楽しみ方が、上手になってきた表れだと思います。このことは住まいにとって、どのような意味を持つのでしょうか。

とりも直さず、しまうべき品物などの増加です。1年に1度か2度しか使わないキャンプ用品もスキー用具も、収納にかなりのスペースを必要とします。

使う頻度や、大きさのまちまちなこれらアウトドア用品の収納は、どのようにつくるべきなのでしょう。大きさや形を頭におきながら、考えていきましょう。